

## 質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	慶應義塾大学		
取 組 名 称	メディカルプロフェッショナリズム教育の推進		
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	医学部	取組担当者	福田恵一
W e b サ イ ト	<a href="http://www.med.keio.ac.jp/gp/shitsu-gp/">http://www.med.keio.ac.jp/gp/shitsu-gp/</a>		
取 組 の 概 要	患者さん中心の医療・生命倫理・医師としての責務の理解、ヒューマニズム・生涯学習の態度の涵養など、Medical Professionalism を意識した「質の高い医学教育」を確立するために、①医の原則、生命倫理をテーマとする授業、講演、FD の実施、②Medical Professionalism 教材の作成、③白衣式と「誓いの言葉」作成プロジェクトの推進、④プライマリ・ケアにふれる学外臨床実習の実施、⑤模擬患者・シミュレータを用いた臨床教育の推進、⑥Professionalism/「良い医師」の客観的評価スケールの作成、などに取り組んだ。		

### 1. 取組の実施状況等

#### ①取組の実施状況 【1ページ以内】

(1) 取組の実施体制：本取組は医学教育統轄センターを中心に、医学部運営会議への提言、調整と必要な各部署、教育関係委員会での検討により、教授会に報告され、実施された。 本学の教育関係の委員会、組織体：1)医学部運営会議（医学教育統轄センター長がメンバー）、2)医学教育統轄センター会議と下部組織(FD委員会、クリニカルシミュレーションラボ運営委員会、BLS委員会、クリニカルクラシック検討作業部会、クリニカルアナトミラボ運営委員会)、3)教育委員会、4)学務委員会、5)カリキュラム委員会

(2)(3) 取組の実施状況と社会への情報提供活動

1) Professionalism、近年の医療問題と関連する授業を、積極的に展開した。(例 2年生：「死への準備—終末期医療の現状と課題」、「コミュニケーション学」、「患者学：患者中心の医療とは何か」、「期待される医師像とは—インフォームド・コンセントをとおして考える生命倫理と QOL」、4年生：「院内感染」、「医療安全」、5年生：「医師法と医療」、「医療倫理の変遷」、「医療コミュニケーションと同意」、「臨床治験の科学性と倫理性」など。一部、小グループ討論形式授業も導入)(学生：各学年 100名)。

2) Medical Professionalism、生命倫理関連の講演会、教育FD(教職員5～20名、大学院生30～50名、学生5～30名/1回講演・セミナー)を開催し、講演者と Professionalism 教育のあり方、カリキュラムへの導入について検討した。これらの一部は、録画して電子記録媒体として保存し、Professionalism 教育の教材として編集した。

3) ハワイ大学主催で1月、2月に行われる臨床教育/PBL教育ワークショップに教員を参加させた(教員毎年各5名)。同時に、参加教員が、臨床実習でPBL方式(学生6-8名の少人数)授業を取り入れ、学生の自己学習、問題解決能力を醸成した。

4) 本取組の成果物、①「Measuring Medical Professionalism; Stern DT 編(医療プロフェッショナリズムを測定する)」を翻訳・出版(平成22年発行)、②「生命倫理1・2」(平成23年発行)を出版し、本学の教育スタッフ、全国の医学部・医科大学、医学教育関係者に配布し、Professionalism 教育の導入を推進するとともに、Professionalism の評価法や生命倫理教育に対する意見を広く求めた。

5) 「白衣式」を開催し、教員がチューターとして参加してアドバイスしながら、学生自身の言葉による「誓いの言葉作成プロジェクト」を実施した(4年生)。

6) 地域医療を担う、東京医療センターなどの関連教育病院(45)において、教育協力費や医療補償などの契約のもとで、プライマリ・ケア、地域医療を学ぶ臨床実習を通して実践的な臨床実習の機会を増やした。また、開業医での臨床実習参加も進めた。

7) 内科の臨床実習を中心として、模擬患者(SP)を参加させた臨床実習教育を積極的に、実施した。これまで、所属する約20人のSPに、30以上の病態シナリオを再現できるようにSPを養成した。

8) 数百人の患者さん、その家族、医学生、高校生などを対象として、「良い医師」の構成要素を、Conjoint分析により重み付けした数値化分析の結果、「良い医師」の重要因子を明らかにし、「良い医師」評価スケールを作成した。

9) Web上で自己学習可能な、我が国で最初の本格的な医療 Professionalism 教材「ベッドサイドに立つ前の習得必須知識」を臨床実習前の学生に活用した(約50名/2年間)。

10) 学生が自主的に、本学の医学教育に関するアンケート調査を実施し、教材や授業法の改善に関する学生のニーズが把握された。また、本取組の学生による「3学部合同カリキュラムを考える会」の検討などを踏まえ、Inter-professionalism 教育を推進するための医学部・看護医療学部・薬学部の教育スタッフ(学部長、教育責任者、教員)による3学部合同カリキュラム検討委員会が創設し、3学部の教員(25名)、職員(10名)、学生(医:91, 看:36, 薬:36名)が参加した、第1回合同ワークショップが平成23年5月に開催した。

11) 本取組の最終年度に、3年間の本取組全体の総括として、「メディカルプロフェッショナリズムの推進(平成20～22年)」事業報告書を作成し、国内の医学教育施設に配布し、情報と成果を共有した。

## ②. 取組の成果 【1 ページ以内】

- 1) 国内外の専門家による Professionalism、生命倫理に関連する講演と討論は、教員・学生の Medical Professionalism に対する意識を向上させ、今後の Professionalism 教育のカリキュラム導入への準備が整った。また、自己学習可能な画像化教材は Professionalism 教育の展開に寄与した。
- 2) 医学部教員がハワイ大学ワークショップで、米国における臨床実習の手法(PBL, clinical case simulation など)や医学教育理論を学んだ。その結果、ワークショップで学んだ教育手法が臨床実習に導入され、臨床教育の質的向上につながった
- 3) ①「Measuring Medical Professionalism」、②「生命倫理 I・II」の発行と全国の医学部・医科大学、医学教育関係者への配布により、我が国の医学教育における「Professionalism の定義とその評価法」に対する認識が高められた。また、これらの成果物は、今後学内のみならず、他の大学、医育機関での Professionalism 関係の授業立ちあげに役立つものと考える。
- 4) 白衣式において「誓いの言葉」を作成・宣誓するプロジェクトにより、臨床実習開始前の学生自身が、その資料収集や討議などを通じ、Professionalism について考え、その重要性を認識させることができた。また、本式の他学教員への公開、講演内容と「誓いの言葉」の小冊子作成、新聞への掲載により、Professionalism の意義と本学における「白衣式、誓いの言葉プロジェクト」を学内外に広く周知し、高い評価を得た。
- 5) 市中病院である関連教育施設(45)や東京周辺の開業医などに学生(約 100 名/学年)を派遣し、地域医療教育の充実とプライマリ・ケア教育が強化された。また、教員、学生双方のプライマリ・ケア/地域医療教育の重要性に対する意識が向上した。
- 6) 臨床実習時に、シミュレータ、模擬患者(SP)を臨床実習に積極的に活用することにより、医学部学生の実践的学習の場を拡充し、医学部学生の医療面接を中心とするコミュニケーション・スキル、臨床技能の向上に役立った。
- 7) 「良い医師」の Conjoint 分析を用いた構成要素の数値化により、望ましい「良い医師」評価スケールが完成した。その結果、この評価スケールを用い、学生の Medical Professionalism からみた能力を客観的に評価する準備が整った。今後、具体的な評価票の作成と運用に着手する予定である。
- 8) 臨床実習開始前の学生が Professionalism 学習用教材「ベッドサイドに立つ前の Pro 習得必須知識」を自己学習することにより、医療倫理を理解し、臨床実習を行う医学生としての基本姿勢を身につけるのに役立った。
- 9) アンケート調査により、学生の教材や授業法の課題やニーズが把握され、今後の教育内容や手法の改善に活用された。また、3 学部合同カリキュラムの検討により、チーム医療の重要性、Inter-professionalism に対する意識が高まり、3 学部学生の合同ワークショップが実現した(後期:平成 23 年 5 月開催、前期:6 月、9 月開催予定)。

## ③. 評価及び改善・充実への取組 【1 ページ以内】

- 1) 本取組による Professionalism 教育は、各学年における学生の学習状況により、実施された。取組内容の検討は、医学教育統轄センター会議、カリキュラム委員会、FD 委員会、クリニカル・クラークシップ検討作業部会、クリニカル・シュミレーション・ラボ運営委員会の場で継続的に議論され、進行状況の把握、教育効果の評価が行われた。また、授業終了時には、学生評価とともに、授業内容に対する学生からの逆評価を行い、講義内容の改良点、改善すべき点、望ましい授業方向、テーマに対するフィードバックを絶えず得ながら、継続的に本取組のプログラム改善を進めた。一部の授業や講演では、すでに導入している audience response system(KeePad)が評価に用いられた。
- 2) 本取組で実施した Professionalism、生命倫理、医学教育に関連する講演・セミナーをビデオ録画し、学習者(教員・学生)が iPod、Intranet により、自己学習できる ICT 教育システムを構築した。また、講演の参加者に、講演の内容や企画に対するアンケート調査を実施し、改善すべき点、テーマに対するフィードバックを絶えず得ながら、講演企画、内容などの改善に役立てた。

3) ハワイ大学の医学教育ワークショップでは、派遣教員(5名/年)が、ハワイ大学の医学教育スタッフ、他の医学部、医育機関からの教職員と、各大学の医学教育の現状や PBL への取り組みについて発表し、各々の課題について議論した。派遣教員は、帰学後、ワークショップ発表会などで医学教育の動向と教育手法について報告し、参加報告書を作成し、情報共有とともに臨床教育の質の改善に役だてた。

4) 医学教育統轄センターが、成果物①「Measuring Medical Professionalism」、②「生命倫理 I・II」を発行し、本学の全教育スタッフ、全国の医学部・医科大学、医学教育関係者に配布し、Professionalism の評価法や生命倫理教育に対する意見を広く求め、本取組の改善に役立てた。

5) 本学と市中病院である関連教育施設との連携協議会において、学生の臨床実習への貢献、教育機能や設備などを含む評価項目により、教育中核病院が選定された。地域医療教育の充実とプライマリ・ケア教育の強化を目指し、教員・指導医の人事交流、学生の実習評価法、指導医への職位付与など、を検討している。

6) 白衣式は、Professionalism 教育の指導者を講演者として、医学部長、病院長、医学教育統轄センター長、同窓会長、臨床実習開始前の医学部4年生とその家族、学外からの見学者(主に、本式の導入を図る他学の教育関係者)が参加して行われてきた。医学教育統轄センター会議と FD 委員会において、その一層の充実に向け、内容の報告と今後の課題について検討されてきた。また、講演内容と「誓いの言葉」を掲載した小冊子を作成し、学内外に配布し、その意見を広く求め、改善に役立てた。

7) 学生が、教員のアドバイスのもとで、教材作成、授業法などに関するアンケート調査を実施し、その結果を検討し、本学の医学教育の現状と課題について、医学教育統轄センター会議、教授会、教育 FD、医学教育学会で発表し、教育の質向上のための貴重な提言となった。また、本取組の学生による「3学部合同カリキュラムを考える会」の検討を踏まえ、Inter-professionalism 教育推進のために、医・看護医療・薬学部の教育スタッフ(学部長、教育責任者、教員)による3学部合同カリキュラム検討委員会を創設し、3学部の教員、学生が参加した合同ワークショップを開催した。

#### ④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

##### 1) 財政支援期間終了後の取組

① 医の原則、生命倫理をテーマとする授業、講演、FD の実施、② Medical Professionalism 教材の作成、③ 白衣式と本式における「誓いの言葉」プロジェクトの実施、④ 模擬患者・シミュレータを用いた臨床教育の推進、⑤ プライマリ・ケアにふれる学外臨床実習の推進、⑥ Professionalism 到達度の客観的評価スケールの作成、⑦ グループ・アプローチとして本学医療系3学部合同カリキュラムの推進、などの「医学教育の質の向上」「Medical Professionalism 教育の推進」に必要なプログラムを継続実施することを予定している。とくに、財政支援終了後も、その実施と推進にかかる経費は大学の経常予算の範囲内で維持し、継続実施する。

##### 2) 教育の質的向上に向けた改善・充実を図る今後の計画

【カリキュラム】カリキュラム委員会では、Medical Professionalism 教育をさらに積極的に導入する、新カリキュラムを策定中である。従来、一関連科目の授業で散発的に行ってきたが、これらを科目として集約整備し、理解度を深め重要性を認識させる授業体系にする。また、学生の成長過程にあった、全学年にまたがる Professionalism 科目の設置も検討している。また、白衣式も Professionalism コア教育として、本プロジェクトの学習過程を経て作成した誓いの言葉は、白衣式だけでなく、出版物として公表し、学生の学習意欲を向上させる予定である。

さらに、現在、医療の現場では、複数分野の医療専門家が連携する真の意味でのチームワーク医療が重要となっている。「医学部」「看護医療学部」「薬学部」の3学部にもまたがる Inter-professional な症例テーマを選び、異業種連携の重要性、医療安全や医療チームワークについて、教員をチューターとして、それぞれの学部の学生が主体的に企画したワークショップで学ぶ機会を増やす予定である。

【FD】今後も、Medical Professionalism 教育を積極的に展開している海外から、複

数の指導者を招聘し、そこでの取り組みや本学医学部教員との議論を行い、本学における Professionalism 教育に反映していく。また、現在の FD 委員会の中に、1)教育 FD、2)Professionalism・生命倫理 FD を担当するワーキング・グループを立ち上げ、より効果的 FD が実施される体制を構築する。FD、講演の内容は可能なかぎり報告集や電子媒体として発行し、学内外を問わず、多くの教員・学生が自己学習できるよう ICT を含む教育システムを推進し、我が国全体の医学教育の質向上を目指す。

さらに、新たな質の高い Medical Professionalism 教育を実践している国内外の施設、医学教育関連学会、ワークショップに教員を積極的に派遣し、医学教育ワークショップ、FD 委員会、カリキュラム委員会を通じてその報告と情報交換を医学部教員間で緊密に行い、医学教育の動向と課題や新たな教育手法の導入などに関する情報を共有する予定である。

## 2. 取組の全体像 【1 ページ以内】

### 取組概要

患者さんを中心とする Medical Professionalism を意識し、バランスのとれた医療人を養成するための質の高い医学教育を構築する。

### 取組の趣旨・目的

米国では、医療に対する厳しい目、社会情勢を反映し、Medical Professionalism を意識した医学教育が実践されているが、我が国ではその対応が不十分である。医療として要求される全てに幅広く触れる、日本型プロフェッショナリズム医学教育を確立する。

### 取組の実績・成果

- 1) 医の原則や最近の医療問題を討論し、Professionalismを習得するプロジェクト
  - (1) Professionalism 関連授業の推進→Medical Professionalism を理解し、身に付ける
  - (2) 「医学部」「看護医療学部」「薬学部」の合同カリキュラムの検討と実施(図①)  
→Inter-professionalism(異業種連携)の重要性、医療安全や医療チームワークの理解
- 2) Professionalism、生命倫理関連セミナーの開催(図②)と Medical Professionalism 教材作成(図③)  
→Medical Professionalism の理解と普及
- 3) 白衣式の開催と「誓いの言葉」作成プロジェクト(図④)  
→医師としての責務の習得、医療倫理・患者に対する共感・ヒューマニズムの理解
- 4) 模擬患者(図⑤)とシミュレーター(図⑥)を用いた新たなシミュレーション教育プロジェクト  
→コミュニケーション・スキル、臨床能力、Professionalism 意識の向上
- 5) 学外臨床実習により、地域医療、プライマリ・ケアを理解するプロジェクト  
→大学病院では学べない地域医療、プライマリ・ケアに対する理解
- 6) Professionalism到達度の客観的評価スケール作成プロジェクト(図⑦)  
→客観評価による Professionalism/「良い医師」の質の保証と向上

## 学外からの評価

「Measuring Medical Professionalism」、「生命倫理1・2」、本取組事業報告書(平成20-22年)発行などの情報共有により、本学の Medical Professionalism 教育への取り組みに対する認識が高まった。とくに、Professionalism 教育の一環として実施している本学の白衣式には、全国の医学部・医科大学の教員が見学を訪れ、医学生が「良き医師」を目指す上で価値あるセレモニーとして高く評価された。

## 今後の展開

慶應独自の Medical Professionalism 教育の確立(カリキュラム、FDの改善、高品質教材の作成、評価法の開発)→質の高い医学教育の実践→良き医療人の育成

